



音や音楽が人間の心理・行動に与える影響

情報システム学部情報システム学科
藤沢望 講師

私達の身の周りには無数の音が溢れています。朝なんとなく付けたテレビの音、街の様々な場所で流れる音楽、コロナ禍になって増えた防災無線の音、子供たちの遊ぶ元気な声…、心を癒やす音もあれば、不快に感じる音もあります。これらの音や音楽は、私達の心理や行動に様々な影響を与えます。周囲の音を遮断して作業に集中したいときもあれば、落ち込んだときには心に響く音楽を聞いて元気を取り戻すこともあるでしょう。このような「音と人間の心理・行動の関係」を明らかにしていくのが音響心理学です。

テスト勉強や受験勉強の際に「音楽を聞きながら勉強していた」という人はいるでしょうか？いわゆる「ながら学習」です。学生に聞いてみると、ながら学習はしないという人もいれば、自宅で勉強するときは必ず音楽を聞くという人もいます。しかし、先生や親からは「ながら学習は駄目！勉強に集中できなくなる。」と言われる。本当のところはどうなのでしょう？このことを明らかにするために、様々な音楽を聞きながら文章を覚えて後に解答するという実験を行いました。

図1は、日本語歌詞の邦楽2曲・英語歌詞の洋楽2曲・音なしの5条件での暗記成績で、音なし条件よりも洋楽2曲の正答数のほうが高いという結果でした。図2は、同じ5条件での暗記作業時の印象で、音なし条件は「落ち着いてきた・つまらなかった」、洋楽2の条件では「覚えやすかった・楽しかった・集中してできた」という印象で、ながら学習が必ずしも悪いとは言えない結果になりました。しかし、ながら学習における音楽の影響には個人差があることもわかっており、その個人差につながる要因を明らかにする研究も引き続き進めていくところです。

この研究は一例ですが、私の研究室では多方面から音と人の関わりについて研究を行っています。人間にとっての音の意味、音の役割をこれからも解明していきたいと考えています。

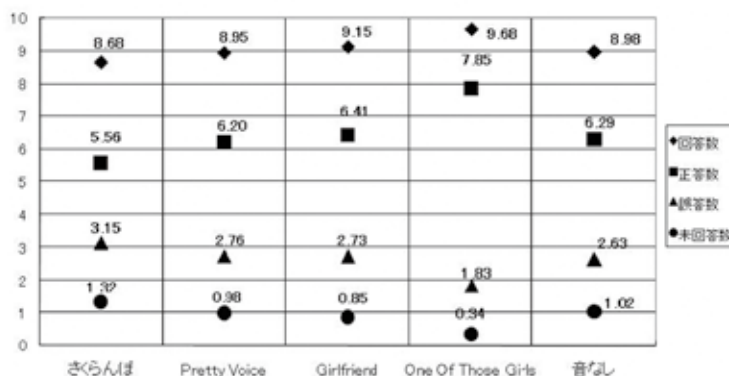


図1 ながら学習時の暗記成績

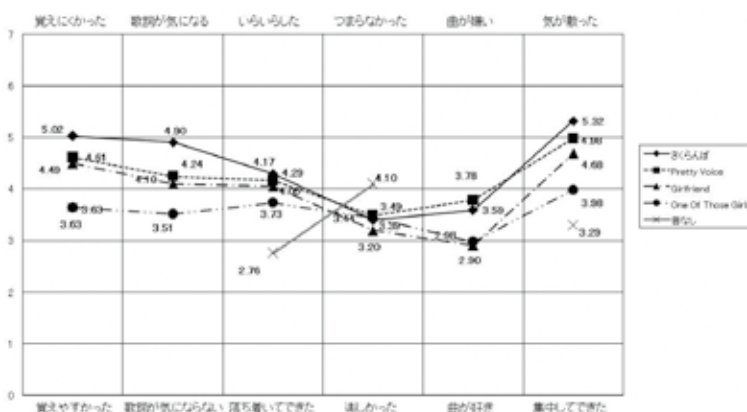


図2 ながら学習時の印象